



山内 寛

(京都市ごみ減量推進会議 地域活動実行委員会 委員長)

今から18年前、地域ごみ減量推進会議は3団体からスタートしました。その後、環境意識の高まりと共にその役割が認められ、現在では160を超える団体が、地域の中心的存在として、日々ごみ減量活動に尽力されています。

活動の輪が広がるにつれて「どこでどんな活動をしているのか?」「うちはこんなことで困っている。」という声をよく耳にするようになりました。その声に応えるべく、平成22年には『地域で取り組む ごみ減量 たねまきBOOK』を発行しました。この冊子は、テーマごとに地域の取組を紹介したもので、とても解りやすいと、多くの反響を頂きました。

また一方で、「一つの地域ごみ減量推進会議では、活動の限界を感じる。」「同じような活動をしている団体が近くにあるので、一緒に何かできないか。」更には「自分たちの区の環境意識を高めたい。」など、地域と

いう垣根を越えた「連携」が課題となっていました。平成21年からは、行政区単位での地域ごみ減量推進会議設立の機運が高まり、昨年(平成25年)全ての行政区で立上げが実現、その活動が具体的になってきました。

これを機に、各区地域ごみ減の活動の「今」を紹介することで、情報発信、意見交換の場となることを願っております。

環境活動を継続するためには、行政との「連携」も重要です。各区地域ごみ減量推進会議の立ち上げには、日頃から地域の行事や資源物回収などで市民の声に触れ、市民に寄り添う行政サービスを実践しているエコまちステーションの協力が不可欠でした。

行政に関わる人も、私たちと同じ市民です。思いを一つにし、より良いまちづくりを目指して、力を合わせてまいりましょう!

- ごあいさつ (京都市ごみ減量推進会議 地域活動実行委員会 委員長 山内 寛) ----- p01
- 目次 ----- p02
- 高月会長からのメッセージ「地域ごみ減量推進会議は次のステージへ」 ----- p03
- 京都市ごみ減量推進会議とは ----- p05
- 地域ごみ減量推進会議とは ----- p07
- 地域ごみ減量推進会議 設立に向けたアドバイス ----- p09
- 各行政区地域ごみ減量推進会議による取組
 - 北 区地域ごみ減量推進会議 ----- p11
 - 上京区地域ごみ減量推進会議 ----- p12
 - 左京区地域ごみ減量推進会議 ----- p13
 - 中京区地域ごみ減量推進会議 ----- p14
 - 東山区地域ごみ減量推進会議 ----- p15
 - 山科区地域ごみ減量推進会議 ----- p16
 - 下京区地域ごみ減量推進会議 ----- p17
 - 南 区地域ごみ減量推進会議 ----- p18
 - 右京区地域ごみ減量推進会議 ----- p19
 - 西京区地域ごみ減量推進会議 ----- p20
 - 伏見区地域ごみ減量推進会議 ----- p21
- 京都市ごみ減量推進会議 地域活動助成対象となる活動と経費 事例 ----- p22
- 平成25年度新規設立団体紹介 ----- p23
- 地域ごみ減が活用できる! 助成制度案内 ----- p25
- 地域ごみ減量推進会議の設置状況 ----- p26

『地域ごみ減量推進会議は次のステージへ』

京都市ごみ減量推進会議会長 高月 紘 (京都大学名誉教授、京エコロジーセンター館長)



1 地域ごみ減量推進会議の現状について

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしまちと暮らしを実現するために、平成8年(1996年)に設立した、市民、事業者、行政のパートナーシップに基づく全国的にもユニークな組織です。とりわけ、地域でごみの減量を実践する地域ごみ減量推進会議が重要な役割を担っています。地域活動実行委員長の山内氏や事務局の努力で、平成26年3月現在、167団体が地域ごみ減量推進会議として立ち上がり各々活発な活動をしています。最近では、区単位での会合はもとより、市内全域の地域ごみ減量推進会議が一堂に集まり、情報交換ワークショップを開催しています。

2 パートナーシップ的な活動について

京都市ごみ減量推進会議は種々の組織との連携やパートナーシップ活動を重要視していますが、やっと最近になって、事業者や他の団体と連携した活動が活発になってきました。具体的には、小売業さんとの「ようきにへらそうキャンペーン」やエコまちステーションと連携した地域ごみ減の掘り起こしを行ってきました。また、京都市の他の事業との共同エコ活動などがあげられます。

特に、これからは事業者とのパートナーシップ活動が期待されます。これまで、事業者向けのごみ減量実践講座など地道に活動をしてきましたが、これからは、事業者の自主的なごみ減量を促したり支援する取組が必要と思われる。

3 地域ごみ減量推進会議の活動の次の一手は?

これまで、地域ごみ減量推進会議の実践活動は、使用済てんぷら油の回収や新聞紙、ダンボールの回収が中心でした。そして、これらの活動はエコまちステーションの協力の下で着実に実績を上げてきました。しかし、減量効果としては最近頭打ちの感があります。そこで、さらにごみ減量を進めるためには、雑がみの回収や生ごみ減量の推進に取り組む必要があると思います。10年以上前までの古紙回収では新聞紙やダンボール以外の紙、いわゆる雑がみにおいては回収対象となる紙の分別がなかなか面倒でした。しかし、最近では古紙再生技術がかなり進歩し、色のついた広告紙や質の異なる紙が混ざりこんでも、再生紙として充分活用できるようになってきました。

そこで、京都市は「雑がみは雑がみとして一括回収する」ことを推奨しています。また、生ごみ3キリ運動、すなわち「使いキリ、食べキリ、水キリ」も地域の皆さんが取り組みやすい運動です。そこで、地域ごみ減量推進会議の次なる活動としては、「雑がみ回収、生ごみ3キリ運動」に力を入れて取り組んでもらうことで、更なるごみ減量につながると思います。



4 ごみ減量推進会議が目指す方向について

京都市ごみ減量推進会議は、ごみの減量を旗印に活動を展開してきましたが、実際に地域ごとの活動の中では「ごみ減量」「温暖化防止」「省エネ」など、個々に区別することなく一括して「エコ活動」として取り組んでいます。基本的には「ごみ減量」を切り口にはしていますが、目指すは地域でのエコ活動の活性化です。したがって、今後も種々の団体と一緒に、地域、更には区単位でエコ・コミュニティの構築をめざしたいと思っています。



京都市ごみ減量推進会議とは

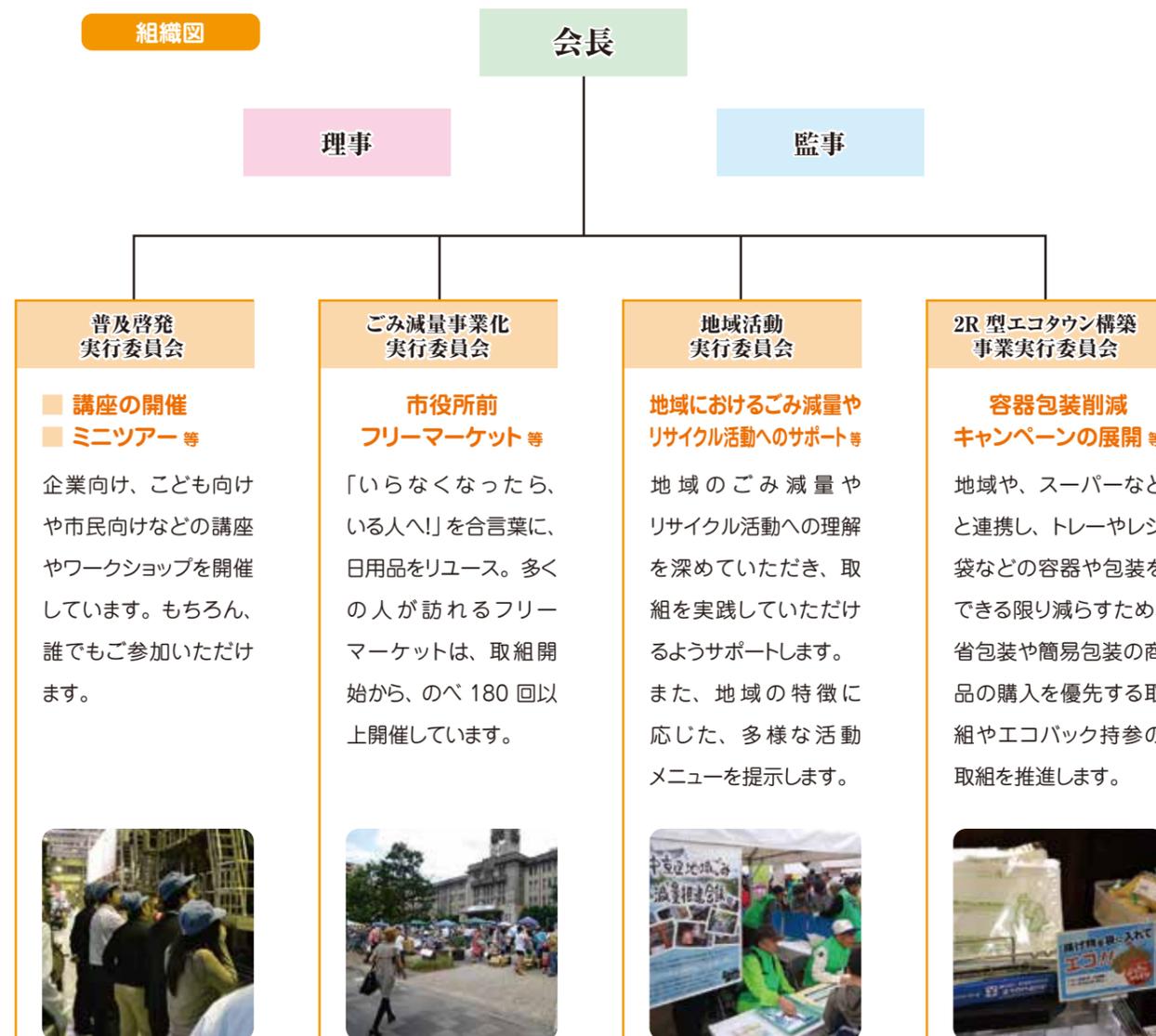
1 概要

京都市のごみを減らし、環境を大切にしまちと暮らしを実現するために、市民、事業者、行政の三者が自発性とパートナーシップを基本としてごみ減量に関する意識の高揚を図るとともに、地域でのごみ減量に関する自主的な取組を推進することを目的に、平成8年11月に設立されました。



2 組織

会長：高月 紘（京都大学名誉教授・^{みやこ}京エコロジーセンター館長）



3 実行委員会の事業

①普及啓発実行委員会

会報誌「ごみ日和」の発行、啓発イベントや企業向け、こども向けや市民向けの講座の開催等を通してごみ減量に関する普及啓発を実施しています。



企業向けごみ減量実践講座（講座、見学ツアー）



啓発イベント



こども向け講座

②ごみ減量事業化実行委員会

学校給食用牛乳パックを再生した「めぐレットペーパー」の普及促進、市役所前フリーマーケット、秘密書類リサイクル、市民等からの提案によるごみ減量モデル事業など、ごみ減量に関する事業を実施しています。



めぐレットペーパー普及促進



秘密書類リサイクル

③地域活動実行委員会

地域におけるごみ減量推進会議の活動支援や、ごみ減量推進のためのリーダー養成講座の開催など、地域における取組の推進と新たなごみ減量取組への気づきや学びへとつながる場を提供しています。



ごみ減量のためのリーダー養成講座

④2R型エコタウン構築事業実行委員会

2R（発生抑制・再使用）の考え方を重視し、容器包装削減事業、京のお直し屋さん紹介サイト「もっぺん」の運営、エコ商店街事業など、市民、事業者との協働による取組を実施しています。



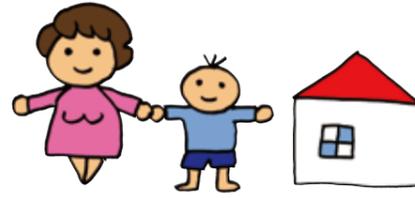
容器包装削減事業（「ようきにへらそうキャンペーン」）



エコ商店街

地域ごみ減量推進会議とは

1 「地域ごみ減量推進会議」とは



ごみ減量は、地域や家庭などでの取組や活動が重要です。

この地域でのごみの減量やリサイクル活動に取り組まれているのが、「地域ごみ減量推進会議」です。地域ごみ減量推進会議は、小学校区（元学区を含む）を基本単位として、自主的に組織された団体です。エコまちステーションと連携しながら、使用済てんぷら油や古紙等の資源物回収、フリーマーケット、環境学習会など、その地域の特性に合わせたごみ減量やリサイクルなどの取組を実践しています。

ごみ減量から地域を考え、「ごみ」をとおした視点から地域のコミュニティづくりを目指しています。

*「地域ごみ減量推進会議」の設立団体数：167 団体（平成26年3月末現在）

2 「地域ごみ減量推進会議」の主な活動メニュー

①使用済てんぷら油の拠点回収

②古紙、古着などの集団回収

・「コミュニティ回収制度」の推進と雑がみ分別回収の推進

③環境学習会の開催、講演会への参加、エコクッキングの参加

④フリーマーケット、バザーなどの開催

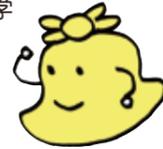
⑤施設見学会の実施

・廃食用油燃料化施設、各クリーンセンター、エコランド音羽の杜、民間施設への見学

⑥生ごみ・落ち葉等の堆肥化事業

⑦資源物の拠点回収

⑧学区内での啓発活動（地域イベントのエコ化等）など



使用済てんぷら油の拠点回収



古紙、古着などの集団回収



落ち葉等の堆肥化事業



資源物の拠点回収



3 「地域ごみ減量推進会議」が取り組んだ、新たなごみ減量活動



①ごみ減量推進のためのリーダー養成講座の開催及び地域における取組の推進



デジタルバネばかりを使用し、まず普段の生活で出るごみを量って記録してもらいました。その後、ごみ減量講座へ参加してもらってから再び生活で出るごみを量ってもらうことで、自分たちの家庭から出るごみが、どれだけ減ったかを目で見えて実感してもらえる取組を行いました。（30%の袋が20%に減量できたとの声も）

②関連部署との連携による活動（各区役所・支所の保健センター、地域力推進室など）



保健センターとの食育セミナー（東山）
「食と健康」をテーマに、食べることで健康面や、ごみの減らし方を一緒に学びました。



地域力推進室とのイベント（南区）
リユースとリサイクルをテーマとして、子供たちが楽しみながら学べるイベントを、地域力推進室と協働で実施されました。

③他団体や他事業との外部連携（スーパーでの容器包装の削減や、エコバック持参運動）



北区地域ごみ減量推進会議との連携による取組（平成23年度）
・ポテトサラダのプラふたなし包装での販売
・ロール袋の使用削減啓発、はだか売り商品PR など
東山区地域ごみ減量推進会議との連携による取組（平成24年度）
・持参容器による刺身の販売・揚げ物のポリ袋による販売
・精肉のトレーなし販売・魚介類のトレーなし販売 など

右京区地域ごみ減量推進会議との連携による取組（平成25年度）
・レンタルエコバックを用いたレジ袋削減

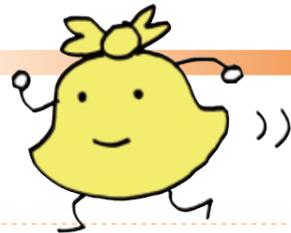
「地域ごみ減量推進会議」の設立に向けたアドバイス

1 なぜ「地域ごみ減量推進会議」なの？

それぞれの地域での「地域ごみ減量推進会議」の活動がもとになってこそ、ごみの発生抑制や再使用、リサイクルが暮らしに根つき、使い捨てないライフスタイルが実現します。

● いつでも・だれでも・どこでもごみの減量を

ごみを減らしたい方、集まれ！
ひとりではなかなか進まない、ごみ減らし。
誰かと一緒にやれば、目に見えて減量効果が上ります。



● 身近なところから、はじめよう

「新聞紙やダンボールなどの、古紙回収システムをつくりたい…」、「地域で学習会を開きたい…」。
ごみ減量に関わることを、かたちにしたいと思ったら、「地域ごみ減量推進会議」に参加し、
はっきりとしたかたちにしてみましょう。

● パートナーシップで、しっかり活動

生ごみ、容器包装、危険物ごみ、不法投棄…。ごみ問題は、もはや行政だけでは解決することはできません。市民・事業者・行政が、それぞれの立場で意見を出しあい、協働で解決の道を切り開いていくことが大切です。

2 「地域ごみ減量推進会議」って？

なにをどうやっていいのやら…。実際に立ち上げるとなると分からないことがいっぱい。
そんなときは、気軽に問いかけてみましょう。

Q&A

Q1 地域ごみ減量推進会議はどういった団体ですか？

A1 「地域ごみ減量推進会議」は、自主的に設立された団体ですので
独自の事業に取り組むことができます。
京都市ごみ減量推進会議の事業への参加や情報交換などの連携をしています。



Q2 地域ごみ減を設立するとどうなるの？

A2 地域でのごみ減量活動に対し、京都市ごみ減量推進会議やエコまちステーションから、
さまざまな支援を受けることができます。
活動方法やアイデアなどを一緒に考え、提案させていただきます。

Q3 地域ごみ減を立ちあげたら、ずっと続けなければならないの？

A3 地域ごとに様々な事情があると思います。必ずしも「続けなければならない」ものではありません。しかし、これまでの経験やアイデアを無くしてしまうのは地域にとって大きな損失です。
次世代に引き継げるよう、協力してもらえらる仲間をたくさん集めることも大切です。

3 設立するまでに、どうすればいい？

人があつての組織です。
ごみ減量に関心のある仲間を見つけましょう。

① 呼びかけ

地域の中でごみ減量に関心のある人などに声をかけましょう。

② ミーティング

参画する人を中心に、設立について話し合いましょう。また、どのような問題があるか意見を出し合いましょう。

③ ルール作り

活動方針、会則など、設立に必要な事項、団体のルールをまとめましょう。

④ 体制づくり

会長、副会長をはじめ、会計、監事など役割分担し、体制をかためます。

4 立ち上げてから、どうすればいい？

① 活動計画

何にどう取り組むのか、計画を練ります。
まずはできることから取り組んでみましょう。

② 具体的取組

ごみ減量活動や、リサイクル活動、学習会の開催等を実践していきます。

③ ミーティング

活動報告、情報交換を行い、今後の活動を発展させていきます。

④ 京都市ごみ減量推進会議への参加

ごみ減量講座や、施設見学会などの事業への参加、情報収集や交流を行います。(全体会議や、リーダー養成講座)

⑤ ネットワーク

各区での地域ごみ減の集まりに参加し、情報交換、意見交換を行います。

きちんと組織づくりをするために

ごみ減量やリサイクル活動の目的意義を明確にし、みんなで共有して、組織としての方針をしっかりとっておくことが大切です。

● 活動方針をきめましょう

組織目的、団体の活動の方針を決めます。

● 活動計画をたてましょう

その地域でやれる実践活動を話し合いながら組み立てていきます。

● 会則をつくりましょう

円滑に運営するために、会則を作ります。



応援します「地域ごみ減」の活動

京都市ごみ減量推進会議の助成は、「地域ごみ減量推進会議」の活動をサポートするシステムです。

● 活動支援・活動参加

ごみ減量活動、学習会の開催等を支援

● 助成対象

「地域ごみ減量推進会議」設立団体

● 助成金

ごみ減量活動に使用する、物品や、講師料などを限度内で支援

● 申請から報告まで

申請書類を提出し、審査が通れば、助成金が交付されます。活動実施後、活動完了届と領収書を提出します。

各行政区地域ごみ減量推進会議による取組

北区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 21 年 9 月

『家計にも、健康にも優しい取組を!』

北区地域ごみ減量推進会議 会長：山本 玉幸さん

お店も家庭もハッピーに

北区地域ごみ減では、平成 22 年度からエコバックの持参を呼び掛ける『「レジ袋いりまへん」で、もっと減らそう!キャンペーン』や、翌年度にはスーパーなどでの容器包装の軽量化を目指す「ようきにへらそう!キャンペーン」を行うなど、地元企業の協力の下、先進的な取組を行っています。これらの取組は現在も続いており、資源を無駄にしない買い物の工夫を呼び掛けています。

楽しいおまつりでエコを身近に

地元企業との環境取組を進める一方、平成 23 年から「北区 ECO まつり」を企画、区民が気軽に参加できるフリーマーケットを開催しています。「北区 ECO まつり」は「市民等からの提案によるごみ減量モデル事業」に選ばれ、今年で 3 回目を迎えました。紫竹小学校、待鳳小学校、大將軍小学校と、毎年会場を変えての実施には苦労もありますが、各地域ごみ減会員さんの尽力や、参加者からの「また来年もやって欲しい!」という声に励まされ、地域が一丸となって取り組んでいます。



美味しさも優しさも伝えたい

北区は、京野菜の生産地としても有名です。野菜の成長には良質の堆肥が欠かせません。北区地域ごみ減では、落ち葉の堆肥化にも積極的です。「自分たちの地域で作った落ち葉堆肥を、北区の野菜農家さんとこで使ってもらい、そこでとれた新鮮なお野菜を『北区 ECO まつり』で皆さんに食べてもらえたらええなあ。」山本会長の新たな夢は膨らみます。市民、企業、行政ががっちり手を携えて環境取組を進める北区。食を通じたごみ減量の試みにも、注目が集まります。

北エコまちステーションからのメッセージ

北区地域ごみ減量推進会議の皆様には、日頃よりごみ減量の取組を積極的に展開していただき、まことに感謝しております。今後もごみ減量に対しての中心的な団体として、エコまちステーションと共に地域に根付く活動を推進していきましょう。

上京区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 25 年 1 月

『ゆっくり時間をかけて…、それが大事なんや!』

上京区地域ごみ減量推進会議 会長：織田 英夫さん

子どもがエコの先生!?

「子どもたちの成長を、地域のみんで応援しよう!」上京区では、毎年 11 月 23 日に「上京の子どもまつり」を開催したり、各児童館での環境取組に力を入れたり、子どもたちと地域の大人が触れ合う機会が多くあります。この地域の特徴を活かし、上京区地域ごみ減では、子どもたちが環境学習で感じたこと、考えたことを発表できる場を設けられないか、検討を始めています。児童館やエコまちステーションとも連携し、環境啓発に繋がる絵や作品を地域のおまつりなどで展示。親子で環境について考えるきっかけになれば、と願いは広がります。

地域の宝を育てよう

「環境活動に限らず、地域の行事を継続してやっていたら、必ず若者が帰って来られる場所になる。」と、織田会長は長年の信念を語ります。「小さいうちから、地域のみんなど関わる楽しさを肌で感じ、その喜びを知っている子どもは、他の人のことも自分のことも大切にできる大人に育つんや。」織田会長の真っすぐな眼差しが、上京区の未来を照らします。



求む! 60 代の底力

この他にも、上京区地域ごみ減では、会員同士の交流と更なる意識向上を目指して、毎年施設見学会を開催。「細かい所までは知らない人が多いから、きちんとした知識を得て、学んだことを回りの人にも伝えたい。」と会長自らの抱負を語ります。また、「定年退職をした世代に、一緒に地域のために汗を流しませんかと声を掛けて、仲間を増やしたい。そのために良い方法を考えるとこなんや。」と今後の課題についても教えて下さいました。

上京エコまちステーションからのメッセージ

歴史ある美しい上京区の環境を守ることや循環型社会構築のため、地域ごみ減量推進会議の皆様は模範的な環境活動を実践され、エコまちステーションの取組にも多大なご協力を頂いております。誠にありがとうございます。



各行政区地域ごみ減量推進会議による取組

左京区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 22 年 2 月

『「この指、^{たか}集れ!」のまちづくり』

左京区地域ごみ減量推進会議 会長：中村 貴司さん

1+1=無限大

南北に広い左京区は、地域によって暮らし方が異なります。日頃は、それぞれの地域で目標を掲げ環境活動を行っていますが、左京区地域ごみ減の思いは一つ。一人ひとりの「環境意識の底上げ」を目指して、これまであまり交流がなかった世代へのアプローチを模索しています。

笑う門には人^{きた}来る

「ごみ減の活動って面白いな、と思ってもらえるような仕掛けが大切です。」と中村会長は静かに語ります。「例えばバザーをする時は、値段を決めるのも自分たちで。これはいくら、これはいくらとみんなで意見を出し合うと、結構盛り上がるんですよ。」スタッフも楽しめるイベントをいかに企画できるか、活動の将来性はその企画力にあるといいます。大学が多いのも左京区の特徴。「大学生も巻き込んで、あっと驚くようなイベントをしたいねえ。」中村会長の目は、青年のように輝きます。マンション世帯や子育て世代にも、環境に興味がある人はきっといるはず。ブログなどで自分たちの活動や思いを発信し、仲間を増やす仕組みも考えているそうです。



ここから、未来の暮らし方を

「ここで、生ごみの堆肥化をしてるんです。」と、中村会長はご自宅の庭先に置いた堆肥化装置を見せてくれました。微生物に分解された生ごみは、二酸化炭素と水、そしてごく少量の堆肥となります。「生ごみだって有価物。賢く活用することで無駄なく資源循環できるんですよ。」また、地域に広がる用水路などを利用して、小型水力発電機の設置も夢ではありません。「左京区が、エネルギー先進地域になるとええなあ。」10年後、20年後を見据えた活動が、今始まろうとしています。

左京エコまちステーションからのメッセージ

左京区では、使用済てんぷら油回収を中心に活動してきました。その他の資源物も地域で回収し浸透してきています。今後は、若者、特に学生の力を借りて、知恵を出し合い、一緒に活動の輪を広げていきましょう。

中京区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 25 年 2 月

『ごみ減らし、どんなんやったらできる?』

中京区地域ごみ減量推進会議 会長：渡邊 幸昭さん

地域の特色を尊重しながら

中京区は、元学区ごとに生活環境が多様で、それぞれの学区の特色に合わせた環境活動が盛んに行われています。中京区地域ごみ減の立上げの際、お揃いのスタッフベストを作成し、区全体でいつでも活動できる基盤を整えました。毎年 10 月に開催される中京区民ふれあいまつりでは、15 学区の地域ごみ減の会員さんが協力し合い、リユース食器の返却やごみステーションでの分別を呼び掛けるなど、積極的に運営にも携わっています。また今年度は、「中京区でのごみ減らしのヒントは、中京区のみなさんから集めてみよう」と、アンケート調査も行われました。

いまある活動を盛り上げて

「せっかく、区単位の制度ができたんやから、区内で素晴らしい取組をしている地域ごみ減と一緒に、活動の幅を広げるお手伝いができたらと思っています。」というも、一つの地域だけでは人手も限られ、住民から反響があってもなかなか運営を大きくできないというジレンマがあるから「みんなで協力して中京区を盛り上げていこう、そして先進的な取組を学んで、その



ノウハウを自分らの活動にも活かす。新しいことを始めても、いまある地域の芽をみんなで育てていくことが大事なんちゃうかな。」渡邊会長の熱弁は続きます。

横のつながりを第一に

「平成 24 年から、竹筒学区で開催されている『子ども服の無料交換会』(会場：京都市こどもみらい館)は、子育て世代から大きな支持を集めていますし、区内の小・中学校を中心に設置が進んでいる、落ち葉堆肥ボックスの更なる活用も期待されている。若い世代や子どもたちとも関わりながら、結果としてごみが減ったら、こんなにええことはないなあ。」生活者の目線を大切に、渡邊会長の求心力に期待が高まります。

中京エコまちステーションからのメッセージ

設立から一年が経ったばかりの中京区ごみ減ですが、一歩ずつ、そして着実に活動の輪を広げて頂いています。これからも、地域での活動を盛り上げていくことを中心に、ごみの減量につながる取組を全力で協力させていただきます。

各行政区地域ごみ減量推進会議による取組

東山区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 25 年度 1 月

『美味しく食べて、地域イキイキ!』

東山区地域ごみ減量推進会議 会長：本政 八重子さん

美味しさへの感動が活動のエネルギーに

東山区地域ごみ減では、平成 25 年 11 月に食育セミナー「旬の野菜をまるごと味わうクッキング」を東山保健センターの協力を得て開催。冬野菜の代表、かぶらの実、皮、葉を丸ごと使った美味しい献立に、若い世代も大喜びでした。「みなで食べたなら美味しいなあ。」「こんな調理方法はじめてや、家でもやってみよ。」と反響も上々。「また開催して欲しい。」との声も多数ありました。

いくつになっても学ぶ喜び

手作りの良さを改めて実感し、いくつになっても学ぶという姿勢を持つことで、「地域の高齢者が生き活きて明るくなったよ。」という報告も。使用済てんぷら油の回収でも実績のある東山区。本政会長は「ちょっとの油でも美味しく揚げ物ができるコツを地域の皆さんに伝えています。家で揚げたてを食べると、やっぱり元気が出るしな!もちろん、安全には配慮して。」「ごみの分別にしても資源物回収についても、自分が率先して動くのは当たり前。そうでなければ皆さん付いて来てくれません。後は後継者が育てて欲しいなあ。憎まれ口を叩いても頼られて…困りますねん(笑)。」

食べ物がつなく地域の輪

今後も、食育セミナーを続けたいと語る本政会長。毎年 5 月に開催される「東山区民ふれあいひろば」でも、エコクッキングのレシピを紹介できればとアイデアは尽きません。また、地域の食を支えるスーパーとの協働も不可欠です。より良い地域環境作りは健康から。身近な食をテーマに、東山区の取組は始まったばかりです。



東山エコまちステーションからのメッセージ

東山区はエコクッキングや食育セミナーを開催し、食を通じて楽しく地域の方とごみの減量についての活動を行ってきました。

今後も、ごみ減量の取組をごみ減の方と一緒に楽しく考えていきたいです。

山科区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 22 年 2 月

『好きやから、続けられるのかな』

山科区地域ごみ減量推進会議 会長：村西 法子さん

誇りは高く、敷居は低く

てんぷら油や古紙回収量が、常に上位の山科区。どんな工夫をすれば環境活動が日々の暮らしに根付くのか、そのヒントを得ようと、京都市内外から環境団体が見学に来られることもしばしば。本年度、山科区地域ごみ減では 9 月に施設見学会を実施、11 月には「やましな健康・環境フォーラム」と、「ふれあい“やましな”2013 区民まつり」の運営にも携わるなど、精力的に活動をしています。特に、今年の区民まつりには山科区地域ごみ減として初めて出展し、家庭にあるボタンでネックレスを作るワークショップを行いました。子どもから大人まで、約 100 名が参加、思い思いにボタンを組み合わせて、リサイクルアートを楽しみました。

お金をかけずに、手間ひまかけて

「こんなん知ってます?」と村西会長が見せて下さったのは小さな笛。「これは、夜道や地震の時など、身の周りの危険を人に知らせるための護身用の笛なんです。」聞けば、来年の区民まつりのワークショップの内容を考えているのだとか。この笛に、手作りのひもを通せば、お洒落な作品が完成です。地域のイベントな



どで、家庭にある身近な素材を使ったアイデア作品を紹介する村西会長。これまでに、風呂敷アートや古着アートに挑戦するなど、リサイクル素材を使った作品を通して、ものを大切にする心を伝えていきます。

アイデアの周りに人の輪が

何か相談したいことがある時に、『ちょっと来てえな。』と言える関係を大切にしている山科区地域ごみ減。「ほんまはねえ、もうそろそろ会長を交代したいんやけどね。」もの作りのアイデアに溢れる村西会長の活躍は、まだまだ続きそうです。

山科エコまちステーションからのメッセージ

山科区地域ごみ減量推進会議の皆様におかれましては、日頃より環境に配慮した取組や、資源物の回収など、ごみ減量活動を積極的に実践しておられます。

これからも、一緒に山科区を盛り上げていきましょう。



各行政区地域ごみ減量推進会議による取組

下京区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 22 年度 4 月

『やっていることが見えなあかん!』

下京区地域ごみ減量推進会議 会長：加藤 純一さん

黄色い袋には入れんとって!

「下京区は、学区ごとに資源物回収に力を入れてます。」こう語るの、下京区地域ごみ減の加藤会長。資源物とは、使用済てんぷら油や蛍光灯、乾電池などのことで、各学区内の拠点、更には地域のイベントなどで回収を呼び掛けており、徐々にその認知度が上がっています。下京区地域ごみ減では、この資源物回収を区単位で実施できないかと、その模索が始まっています。

知らない人に、知って欲しい

「資源物回収を自分らの町内でやると、とても喜ばれます。特に年末は、大掃除で出た蛍光灯など、家庭の中で管理が大変な資源物がたくさん集まります。」住民からも「資源物を出すのに重たいさかい、家の近くで集めてくれて助かる」や「もっと頻繁にやってほしい」「古着なんかも回収してほしい」など、様々な声が聞かれます。「これだけ反響があるんやから、区全体でやってみる価値はあるんちゃうかな。」回収日や回収時間帯を工夫して、マンションの住民や働く世代にも参加しやすい仕組み作りが大切だ、と語る加藤会長。



いろんな世代に関心を持ってもらい、回収量の増加につなげたいと、意欲を見せます。

『ありがとう』が伝わるまでに

下京区ごみ減では、新たな地域ごみ減の立ち上げにも積極的です。「仲間を増やすには、まず自分たちが活動している姿をしっかりと見せる。そして、皆さんから“ありがとう!”の言葉をもらい「やって良かったなあ」と思える瞬間を、たくさんの仲間と共有したいと思っています。」23の全ての学区で地域ごみ減が立ち上がり、下京区のつながりが更に深まるのは、遠い未来ではないと感じました。

下京エコまちステーションからのメッセージ

資源物回収を通してもらう「ありがとう」「助かる」といった言葉は、地域のコミュニケーションにもつながり、下京区地域ごみ減量推進会議が行っている活動の本当の姿ではないかと実感しています。今後も、精いっぱい支援いたします。

南区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 21 年 7 月

『届け! 子どもたちへ、この思い』

南区地域ごみ減量推進会議 会長：藤岡 正男さん

お金では買えないモノ

JR 京都駅から徒歩 5 分、多くの人で賑わうイオンモール KYOTO で、子どもたちが主役のおもちゃの交換会「みなみちびっこエコひろば かえっこバザール in みなみ」が開催され、南区地域ごみ減量推進会議もエコ工作で参加しました。平成25年から始まったこのイベントは、今年で2回目。複合型商業施設での開催は、京都市内でも珍しい取組です。

企業も地域の一員として

イオンモール KYOTO には、地域住民が情報発信の場として活用できる「Koto ホール」という広場があります。「今回のイベントが実現したのは、店長さんの理解と協力を得られたことが大きい。」と南区地域ごみ減の藤岡会長は振り返ります。子どもたちに「物を大切にする心」を呼び掛けたい。この地域の願いが企業を動かし、企業の社会貢献の在り方を見つめ直すきっかけともなりました。

エコのまちの魅力をアピール

南区は、「エコ学区」事業*に区内 15 学区全てが参加するなど、団結力が強く、環境意識が高い地域です。「今後は、毎年 11 月に開催される『南区民ふれあい



まつり』や、3月に開催される『南部まち美化スプリングフェスタ』でも、南区地域ごみ減の活動を知ってもらうためにブースを出したいなあ。」と藤岡会長は意欲を見せます。施設見学会などを通して、会員の意識向上を図ることも大切ですが、より多くの市民に環境活動への参加を呼び掛けたい。「他の区の取組も参考にしながら、エコまちさんと協力して環境活動を盛り上げたい。」藤岡会長は抱負を語ってくれました。

「エコ学区」事業…京都市では、環境にやさしいライフスタイルへの転換を図ることにより地域や家庭から排出される温室効果ガスの削減を促進するため、地域ぐるみで更なる環境意識の高揚と環境活動の実践が図られるよう、「学区」のエコな取組を支援しています。

南区エコまちステーションからのメッセージ

南区地域ごみ減量推進会議の皆様には、平素から、地域でのごみ減量に係る活動にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

今後も、新しい取組の提案等、南エコまちステーションまで、お気軽にご相談ください。



各行政区地域ごみ減量推進会議による取組

右京区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 22 年 9 月

『普段の習慣、見直しませんか?』

右京区地域ごみ減量推進会議 会長：菊池 初江さん

しっかりしぼってダイエット!

右京区地域ごみ減では、平成 23 年度より、家庭から出る生ごみの水切りを励行。家庭ごみの約 4 割を占める生ごみの水分を減らすことで、ごみ処理に必要なエネルギーも減らすことができます。この活動は現在も継続中で、今年度は新たに 2 つの活動を行いました。

地元企業とも連携して

1 つ目の活動は、右京区にあるスーパー 13 店舗に協力して頂き、どんな食品にどんなトレーが使われているのかを調査。これらの容器包装を減らすにはどんな工夫が必要なのか、会員同士で話し合いました。この活動の一環として、食品トレーのリサイクル施設を見学し、リサイクルの現状と、無駄な容器包装を減らす必要性についても理解を深めました。

もう 1 つの活動は、右京区にある 3 つの児童館の協力の下、子どもたちがマイバックに絵を描き、1 枚は自分用に、もう 1 枚は「みんなのレンタルエコバック」としてスーパーに設置し、活用させて頂きました。この活動を拡げるため、3 月 15 日～24 日まで、西京極のスーパー、コープパリティにて、実験的に店頭での



エコバックのレンタルサービスを行いました。この実験で得られた結果は、容器包装を減らす取組に、活かされることと考えます。

自分らがせんならん!

常に、先進的な考え方で、社会に一石を投じる菊池会長。「水切りも、せっけん作りも、20 年も前からずっと続けてます。」右京区の各学区では、お互いに競争意識を持ち、「ええと思うことをどんどんやっています。目標を立ててやれば、地域は変わっていきまっせ。」一致団結する右京区地域ごみ減の、今後の活躍から目が離せません。

右京区エコまちステーションからのメッセージ

右京区の皆様には、「ごみの減量は家庭から」をモットーに、水切り等ごみ減量活動に率先して取り組んでいただきありがとうございます。私たちエコまちステーションも皆様のお役にたてるよう頑張ります。

西京区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成 21 年 12 月

『地域の声を、もっと聴かせて!』

西京区地域ごみ減量推進会議 会長：山村 和子さん

暮らしに役立つ提案を

平成 22 年度、西京区地域ごみ減では、区民へのごみ減量呼び掛けの第 1 歩として「正しいごみの出し方 MAP」を作成。「とても分かりやすい」「冷蔵庫に貼って活用している」など、予想を上回る反響があり、市内外からの転入者にも喜ばれました。翌年には西京区の全学区へ配布することができ、西京区地域ごみ減の活動が広く知られることとなりました。

落ち葉堆肥は地域の財産

西京区では、春と秋の 2 回、地域の一斉清掃を行っています。11 月は落ち葉の季節。公園の木々や街路樹など、大量の落ち葉が集まります。以前は焼却処分をされることがほとんどでしたが、各地域ごみ減の協力もあり、年々落ち葉の堆肥化が進んでいます。広葉樹の落ち葉は良質な有機肥料になるため需要が高く、有効な活用方法が検討されています。「落ち葉も立派な資源、自然の恵みを活かしたい。」山村会長をはじめ、エコまちステーションの思いも同じです。ただ、地域によっては堆肥になりにくいイチョウの落ち葉も多いため、専門家の意見も取り入れながら、対策を考えています。

手を取り合って、次の 1 歩へ

洛西支所を持つ西京区は、地理的に離れているため、なかなか交流を持つことが難しかったのですが、地域ごみ減の立ち上げが進む中、環境施設の見学会などを通じて、各地域ごみ減との連携を深めつつ、新たな取組に挑戦したいと考えています。例えば、資源物回収の時に、学乳パックをリサイクルして作られている「めぐレットペーパー」を展示、配布するなど、身近なところから西京区全体の環境意識を高めていきたいと思ひます。



西京エコまちステーションからのメッセージ

西京区ごみ減量推進会議では、分別が「見やすくわかりやすい」の想いから、「正しいごみの出し方 MAP」を作成され、区民の方にはもとより、市外からの転入者の方々には特に好評です。今後も皆様の活動のお力になれるよう支援してまいります。

洛西エコまちステーションからのメッセージ

洛西の地域ごみ減の皆様は、各地域の特色を出すように努力され、地域住民が一丸となる一斉清掃時の落ち葉や、生ごみを堆肥として資源化することで、地域の環境意識、コミュニティーの向上にも貢献されています。皆様の活躍を今後も応援していきたいと思ひます。

各行政区地域ごみ減量推進会議による取組

伏見区地域ごみ減量推進会議

設立年度：平成21年11月

『区役所へ、遊びにおこしやす!』

伏見区地域ごみ減量推進会議 会長：村瀬 克子さん

まるごと伏見でおもてなし

今年3月、伏見区役所総合庁舎で開催された「エ〜コと伏見“2014”」。2回目を迎えるこの取組は、フリーマーケットをはじめ、お茶席やアイデア工作、地元のこだわり野菜の販売など、9つのブースが出店し、親子連れで大変賑わいました。主催は、伏見区地域ごみ減。深草支所・醍醐支所を持つ伏見区ならではの話題性と、エコまちステーションのサポートによって、地域の恒例行事として定着してきました。

1 服のお茶を囲んで

「エ〜コと伏見」の人気コーナーの一つがお茶席です。村瀬会長自らもお点前を披露し、良質な地下水で栄えた伏見の歴史を伝えます。「私にもやらせて!」と、小学生からの反響も上々。暮らしの中でごみを減らすアイデアを伝えよう、と始まったイベントですが、地域の文化交流の場としての役割も期待されています。

豊かな伏見を、次の世代へ

このイベントを開催するきっかけは、以前、納所地域で開催されていた「伏美エコ市」を復活してほしい、という市民からの声でした。「エコまちさんとも相談して、そんなら区役所でやってみよう!と、全面協力を頂きました。」いつもの活動拠点が、楽しいイベント会場に早変わり。村瀬会長は、「イベントに参加した若い世代が、地域活動に興味を持つきっかけになればと願っています。資源物回収や一斉清掃などにも気軽に参加してもらえたら。」と、胸の内を語ります。「今までは土台作り、今後でもできることから着実に、エコ活動の裾野を拡げていきたい。」女性会の代表として、京都市環境審議会などでも積極的に発言をされる村瀬会長。主婦の目線を大切にしながら、豊かな明日を実現するための提案は続きます。



伏見エコまちステーションからのメッセージ

伏見の特色を生かした地域での省エネ、省資源、ごみ減量を中心にエコライフを実践されています。私たちも、ごみ減量につながる情報を提供していきたいと思えます。

深草エコまちステーションからのメッセージ

各学区の皆様には、ごみ減量のアイデア等を教えていただき、いつも勉強になると感じています。やはり生活の知恵はすばらしいですね。

醍醐エコまちステーションからのメッセージ

醍醐地域ごみ減の皆様には、いつも環境に関してのご意見や、我々が活動していく上でのアイデアなどもいただいております。

今後も今まで以上に活発に活動をしていただけるよう我々もサポートしてまいります。

京都市ごみ減量推進会議 地域活動助成対象となる活動と経費 事例

京都市ごみ減量推進会議では、地域の活動を支援するため助成金を用意しています。

助成金対象経費は、地域ごみ減量推進会議での活動における、器具・機材・消耗品の購入、機材の借上げ、報告書・パンフレットの印刷、講師謝礼、会議室使用料、打合せなどに要する経費など、ごみ減量活動にかかる直接経費に限ります。

なお、会議でのお茶代は対象ですが、会員への手当（例えば「商品券」）や飲食費については対象外となります。（京都市ごみ減量推進会議 地域活動助成要綱より）

	助成対象経費	助成対象外経費
器具・機材・消耗品	① 器具購入例 <ul style="list-style-type: none"> ● テント、パラソル、折りたたみイス、漏斗、ブルーシート、台車 ● 周知用パネル、黒板ハンガー、ラック、衣装ケース ● 堆肥BOX、修繕費、ほうき、ちりとり、くまで、メッシュバック（落ち葉入れ） ● 塗りばし、リユース食器（購入分） ● のぼり一式（地域ごみ減量推進会議名義） ● 地域ごみ減量推進会議名義のゴム印 ● 啓発DVD、環境紙芝居など ② 機材購入例 <ul style="list-style-type: none"> ● DVDプレイヤー（学習会用） ● プロアー（送風機、落ち葉集めなど） ● ICレコーダー（議事録や、会議用） ● ミキサー（雑紙や、牛乳パックでののはがき作り）など ③ 消耗品購入例 <ul style="list-style-type: none"> ● 米ぬか、たい肥促進剤、洗剤、ウェス（タオル）、チョーク、マーカー、ハンガー、エプロン、帽子、たすき、カッパ、啓発用ポケットティッシュ、水切りネット、めぐレットペーパー、エコ石けんなど 	① 京都市からの貸与、給付が受けられるもの（貸与） <ul style="list-style-type: none"> ● 使用済てんぷら油回収ポリタンク、のぼり ● ひばさみ （給付） <ul style="list-style-type: none"> ● 軍手、ボランティア袋 ② ごみ減量に直接かわりのないもの <ul style="list-style-type: none"> ● 物置、草刈り機、剪定ばさみ等 ● プランター、花代 ● 参加者へのお礼、お茶、菓子等 ※（助成制度） 使用済てんぷら油の回収やコミュニティー回収など、京都市の助成、活動支援制度を受けられている団体は、そちらを優先してご活用ください。
印刷費	ポスター、チラシ、プログラム、看板作成費 印刷用インク代、コピー代、写真現像代	
講師謝礼	講師への謝礼金のみ	接待費（花束、手土産など）、飲食費
バスの庸車	レンタカー代（ガソリン代、高速代含む） 施設見学、イベント等での搬入含む	運転手への謝礼、手土産、飲食費
会場費	自治会館、集会所、施設の会議室などの施設利用料、 付帯設備費（マイクなど）	飲食店、喫茶店での経費、ガソリン代、お菓子や酒類
打ち合わせなどの経費	会議や施設見学などのお茶代 ※ 会議資料の印刷費、会場費 ※ 会議では可能な限り、茶葉、ティーバックでの利用をお願いします。	

※京都市指定ごみ袋は地域活動助成金の対象と認められておりません。

このため、「京都市指定ごみ袋」の購入費を予算として計上できませんのでご注意の程、よろしく願いいたします。

平成25年度 新規設立団体紹介

※平成24年度以前に設立された団体については「平成24年度版 地域活動レポート」をご覧ください。

西京区

松尾学区地域ごみ減量推進会議 会長：荒木 祐靖

- 4月設立
- 実働者数：10名

主な活動内容 まちづくり活性化事業

現在行っている活動 ごみ分別活動 ごみリサイクルマップの作成など

伏見区

向島藤ノ木学区地域ごみ減量推進会議 会長：宇野 正二

- 4月設立
- 実働者数：6名

主な活動内容 毎月5日、住民による緑地と外周周辺の清掃活動

現在行っている活動 使用済てんぷら油回収、古紙回収、清掃活動

上京区

西陣地域ごみ減量推進会議 会長：藤林 宏

- 7月設立
- 実働者数：5名

主な活動内容 使用済てんぷら油回収、バザー、清掃活動

今後行いたい活動 学習会、見学会

中京区

朱雀第一学区地域ごみ減量推進会議 会長：浜口 正典

- 7月設立
- 実働者数：14名

主な活動内容 町内会、団体が主催する事業への支援、学区民全体の親睦と健康増進を図る事業

現在行っている活動 ごみ減量のための啓発チラシ、ポスター作成、清掃活動

中京区

銅駝学区ごみ減量推進会議 会長：伊藤 高華

- 9月設立
- 実働者数：9名

主な活動内容 銅駝学区において、高瀬川周辺の清掃活動を主とし、集めた落ち葉を堆肥化、地域へ還元する。

現在行っている活動 高瀬川周辺で実施されるイベントでのごみ減量啓発活動 地域清掃での堆肥化。

伏見区

淀学区地域ごみ減量推進会議 会長：長尾 みさ子

- 11月設立
- 実働者数：4名

主な活動内容 使用済てんぷら油の回収、古紙回収

今後行いたい活動 学区に使用済てんぷら油 コミュニティー回収の活動を広げるための広報を行いたい。

伏見区

淀南学区地域ごみ減量推進会議 会長：中野 武司

- 11月設立
- 実働者数：6名

主な活動内容 使用済てんぷら油の回収、古紙回収

今後行いたい活動 地域のお祭り等イベントのエコ化を進めたい。

伏見区

久我地域自治連合会ごみ減量推進会議 会長：森本 重子

- 12月設立
- 実働者数：4名

主な活動内容 桂川クリーン作戦、使用済てんぷら油回収等 古紙回収、久我地域一帯の清掃、資源物回収

現在行っている活動 リユース食器の活用、環境紙芝居

中京区

乾学区地域ごみ減量推進会議 会長：沼田 幸夫

- 3月設立
- 実働者数：8名

今後行いたい活動 古紙回収の全町の実施

